本書の利用にあたって

◆ 本書は日常診療でよくみられる症状・病態について，各科の専門医がスタンダードと考えられる治療の指針および薬物治療の処方について掲載したものです

第Ⅰ章　日常診療で出会う症状・症候へのアプローチ

● 頻度・重要度の高い症状や症候に対して，まず何を考えてどう見分けるのか，以下の見出しや表により診断・対応のポイントを解説．

▼ 既往は？/ ▼ 年齢は？/ ▼ 薬歴は？/ ▼ 対症療法は？/ ▼ 投薬以外にできることは？/ ▼ 夜間だったら？/ ▼ その他のポイントやアドバイス
⊗ 絶対に使ってはいけない薬は？/ ⊗ 絶対に見落としてはいけないことは？

● 症状・症候の主な鑑別疾患を表形式で掲載．

例）

○○の主な鑑別疾患

心因性	不安障害　うつ病　燃え尽き症候群
薬剤	利尿薬　下薬　抗うつ薬　抗不安薬　睡眠薬 降圧薬 アルコール,カフェイン
⋮	⋮

第Ⅱ章　臓器・疾患別の薬の使い方

● 疾患に対する投薬の基本や治療ガイドライン，各薬剤の概説や位置づけなどを冒頭に掲載．

■ ○○○の投薬の基本　/　■ ○○○治療ガイドライン

● 治療に使われる主な薬剤を表形式で掲載．

例）

○○の薬剤種の概観
浸透圧利尿薬（イソソルビド）
循環改善薬（アデノシン三リン酸二ナトリウム，カリジノゲナーゼ）
⋮

● 治療に使われる主な薬剤について処方や注意点を掲載．

薬剤分類名　一般名　略号　商品名

1 浸透圧利尿薬

イソソルビド
（イソバイド®，メニレット®）

剤 液体，ゼリー
用 成人 体重60 kgを標準として70 w/v%のイソソルビドを含む水溶液90～120 mLを1日量とし，3回に分服
適 Ménière病，脳腫瘍・頭部外傷に伴う脳圧亢進時，腎，尿管結石時の利尿，緑内障
機 内リンパ圧降下作用．水腫モルモットで，頸静脈投与〔1.6 mL/kg（50 vvol%）〕時，内リンパ圧は5～10分でほぼ0に近い低下を示し，内リンパ圧降下作用を示す
排 24時間の尿中排泄量は約81%が未変化のまま排泄
禁 急性頭蓋内血腫のある患者，または疑われる患者
副 嘔気，悪心，下痢，嘔吐
併 テルフェナジン，アステミゾールとの併用により，QT延長，心室性不整脈を起こすおそれあり
注 脱水状態の患者，尿閉や腎機能障害のある患者，うっ血性心不全のある患者，高齢者
専 中止後6カ月以内の再発が多いとの報告もあり，症状が安定した際の中止時期については相談が必要．最終めまい発作後6～12カ月をかけて漸減
E ① 観察1年以内では，めまい71～91%，聴力7～32%で有効．内服1年以上では，めまい68～89%，聴力13～32%に有効（2002，宮田ら）
② めまいに関し，短期・長期投与とも有効．聴力改善に効果なし．慢性的な難聴進行の防止に

剤：剤形
用：用法・用量
適：適応
警：警告（赤色太字で表記）
機：作用機序
排：排泄経路
禁：禁忌（赤色ゴシック体で表記）
副：副作用
併：併用（ゴシック体で表記）
注：注意
専：上級医・専門医へ相談すべき点
E：エビデンス紹介
商品名®：ゴシック体で表記

第Ⅲ章　諸科にわたって使われる薬剤

● 薬剤の投薬の基本について，総論的に解説．

総論：○○薬の投薬の基本

● 重要語句や解説が必要な語句について，解説を掲載

例）

キーワード
Dose delay：投与間隔を延期すること
奏効率：ある治療法によって，完全反応，部分反応の両者を加えた率をいう

● 多くの科で使われる薬剤をカテゴリー単位で総論的に解説．また，治療に使われる主な薬剤について処方や注意点を掲載．

※本書に掲載されている参照ホームページのURLは2009年1月時点で確認したものです．